
葬式用の優しさ

めいそ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

葬式用の優しさ

【Zコード】

N75901

【作者名】

めいそ

【あらすじ】

死んだ人には優しいよねって話

あるところに一人のひきもつがありました。

彼は自分の存在が家族にとって負担であると、自分は不要な人間であると、いつもいつも悩んでおりました。

ある時はそれを思いなおし、ある時は絶望し、まるで天秤の左右の腕のように行ったり来たりを繰り返しておりましたが、遂に自分の重さに耐えられなくなり、彼は自殺を遂げました。

彼が気づくとそこには何もない世界でした。

真っ暗で何もない世界。あるのは自分だけ。だけれどそれが不思議と嫌ではないのでした。

時間など流れていてもわからない。でも退屈はない。寂しさもない。でもほんの少し家族への気持ちだけが残っていました。しかしそれも直に消えていくだろう。なぜだかそれがわかつたのです。

なごり雪程のその思いから彼は前の世界を覗いてみることにしました。それはテレビのリモコンのスイッチを押す程度の事でした。

「ああ、なんで一言相談してくれなかつたの！」

葬式の席で前の世界の母がおいおい泣いている姿が映りました。

「ただ生きててくれるだけでよかつたのに。お前とこうやつは……」

前の世界の彼の遺体に向かって前の世界の父が涙を流しながら語りかけています。

「ごめんね、私が優しくしてあげていれば……」

前の世界の姉がひたすら謝っています。

前の世界の親族も前の世界の昔の友人もみんながすすり泣き、「いいやつだった」と口を揃えていつております。

彼はなんだが死んでしまったことが悲しくなりました。自分はこんなに必要とされていたのか……。こんなに悲しんでもらえる存在だったのか……。

彼は決めました。前の世界に戻り。

気づくと彼は自室のベットの上に寝ていました。
少し頭が重いものの、帰つてこられた嬉しさであまりそのことを感じません。

どんな顔して会おう。しばらく悩んだものの結局はいつもどおり会つてみました。

リビングへ行くと両親と姉夫婦と姪が食卓を囲んでいます。

みんなは驚いた顔をして彼を見ました。

数秒の間の後、父が「まあ座りなさい」と椅子を引きました。
彼は椅子に座りましたが黙つていきました。何を言えばいいかわからぬいからです。

その後十分ほど彼をおいてけぼりにして何事もなかつたかのようになみんなが雑談をしていました。

聞いていないふりをしながら人一倍話に耳を傾けていると、
……どうやら自分は自殺をする前に戻つたようだ。みんなが自分を見て驚いたのも自分がめつたに部屋から出てこないからだ。彼はそう気づきました。

食事を済ませると姉夫婦と姪はそそくさと帰つていきました。

優しくしてくれたって言つてたのに……。彼は残念そうに姉の後ろ姿を見送りました。

それから少しの間、手持無沙汰でコップに注がれたお茶をゆっくりとすすつていると、

「なあ、お前いまのままでいいのか？」

父が口を開きました。

「え、でも生きているだけでいいって……」

彼は蚊の鳴くような声で答えました。すると、

「何を言つているんだ！ そんな甘い事を言つて、お前は親が死んだらどうするつもりなんだ。お前はまだ若いんだからやり直せる！」

父は声を荒げます。「姉夫妻に頼るつもりでもそつはいかんぞ。あいつはお前の面倒などみないと言つていた。お前はやればできるんだ。やれることからやつてみろ！」

父の喉から発せられる音の振動を聞きながら、彼は頭が真っ白になるのを感じました。

次の日、母親が一人のところを見計らつて話しかけます。

「あれ死にたいんだけど……」

「何冗談言つてるの。親より先に死ぬなんて親不幸ものであることよ！」

母は血相を変えて言いました。瞳に涙すら浮かべています。

彼は自室に戻り、布団にもぐりこみました。

自殺した日以上の絶望が彼を襲います。

どうしてだ。どうして生きている自分には優しくしてくれないんだ！

あれは夢だったのか！ いや、そんなはずはない。だつたらあの世界へ戻りたい。戻れ、もどれッ！

だけれど彼の前にあるのは布団の中の暗闇とカビ臭いにおいだけ

です。つまりあなたがビリを探ししても見つかるはずもありません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7590i/>

葬式用の優しさ

2010年11月22日21時53分発行